

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4270400817		
法人名	有限会社 季節の花		
事業所名	グループホーム いさはや ユニット1		
所在地	長崎県諫早市福田町1673-8		
自己評価作成日	平成 22年 9月 8日	評価結果市町村受理日	平成 22年 10月 15日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

【1ユニット】山小屋風の木造作りで庭が広く、家庭菜園、花壇の世話や収穫、夏には、夏祭り、花火大会、冬には餅つきを楽しんでいる。春には、部落の花見に招待して頂き、公民館での炊き出しに職員も参加し、郷土料理を教えて頂いたり、ホームの行事にも積極的に参加して下さっている。地域の方に見守られ地域に恵まれた自然がいっぱいの幸福なグループホームです。また週に1~2回入居者と共にドライブへ出かけたり、今年度から入居者と各担当スタッフが、入居者の今一番したい事、望んでいる事を1対1での外出を月に1回1組ずつ行う事で、交流を深める場を作っています。

【2ユニット】山小屋風の木造作りで庭が広く、家庭菜園、花壇の世話や収穫、夏には、夏祭り、花火大会、冬には餅つきを楽しんでいる。春には、部落の花見に招待して頂き、公民館での炊き出しに職員も参加し、郷土料理を教えて頂いたり、ホームの行事にも積極的に参加して下さっている。地域の方に見守られ地域に恵まれた自然がいっぱいで、幸福いっぱいのグループホームです。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

諫早市郊外の自然豊かな場所にあり、ホームにいながら季節を感じることができるグループホームいさはやは、以前店舗として使用されていた建物を改築し、平成15年に開設された。二階建ての木造で、敷地も広く、天気の良い日は何度も利用者が散歩される姿がある。地域との交流も盛んで、今年2月には「地域ケア発表大会」の場で、1ユニットの管理者が「地域に密着したグループホームを目指して(地域の方に見守られて)~という題材で発表された。地域の方に見守られ、また助け合いながらこれからも交流を大事にしていきたいと考えられている。近年は、利用者の重度化が進み、職員は個々の症状に対し、個別のケア・アプローチを日々試行錯誤しながら支援にあたっている。今後もさらにサービスの質の向上に向けて職員教育の充実を図りたいとしている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年9月28日		

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を申し送りじに唱えていたが、最近には行っていないが、機会あるごとに会議などで話をし全スタッフ共有し、実践につなげるように働きかけている。	理念である「自然の風・光・色を感じられる地域・環境のなかで仲間とのんびり暮らせるグループホーム」が日頃の生活の中で自然と実践に繋がっている。今後は、さらに職員への浸透をはかるため、見直しを行っていきたいとしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	部落費を払い、部落の一員として広報配りや回覧板など入居者と一緒に行っている。神社や公民館、道路の掃除にもスタッフが参加し、お米も地域の方から購入し、出来たての新米を食べる事ができている。野菜もよく持ってきて下さっている。	地域との交流は盛んである。部落の公民館での炊き出しや掃除への参加、地域住民からの声かけ・見守りがある。ホーム側としても日頃の還元として、夏祭り開催時は住民を無料招待し、飲み物や軽食を提供されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア発表大会にて「地域に見守られ」を発表した。地域や家族にホーム紙を配り、行事の案内を呼びかけ参加して頂いている。毎年の花見の招待にはほとんどの入居者とスタッフが参加し、郷土料理を御馳走になり、カラオケやゲームを楽しむ事ができた。毎年の花見参加で顔なじみとなり介護の相談をされるようになった。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、今年度は3回行った。各それぞれの立場から意見を交換し、情報を共有する良い機会であった。会議で話し合った意見を今後のサービス向上に取り組みすることが出来るよう全スタッフにも情報を共有し、努力を行っている。	市職員・民生委員・家族代表等が参加し、事業所からの報告(行事・研修・事故など)に留まらず、参加者からの意見や要望も聴かれる双方向的な有意義な会議となっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡協議会の研修にて講演をして頂いたり、交流会、意見交換会でも色々と相談に乗ってもらっている。運営推進会議には、忙しい中出席して指導を頂いたり、情報交換を行っている。	運営推進会議の中で、市職員からのアドバイスをいただくほか、事業所が抱える問題点などを共に話し合い、文書で細かく情報提供をされた事例もある。また、市の連絡協議会に加入され、情報共有にも努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会には、毎年出席し会議で報告し、知識を共有出来るようにしている。帰宅願望の入居者さんも何人かおられるが、玄関に鍵は、掛けず、広い庭をのびのびと歩いて頂いている。禁止の言葉、言葉の拘束もしないように心掛けている。	日中玄関の施錠は行わず、居室の窓もオープンである。身体面が自立された利用者がおられ、帰宅願望が強い方には、一緒に職員が散歩したり、庭を歩いてもらう、楽しみを見つける(レクや体操など)ことで拘束のないケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会、勉強会に積極的に参加し、それを会議で全スタッフが知識を交流し虐待防止に努めている。毎日の介護の中で、虐待にあたる行為がなかったか全スタッフお互いが注意しあっているような雰囲気を作るよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員が、会議の中で内容を報告して知識を共有したり話し合いを行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者や管理者が重要事項や契約内容を十分に説明し、理解して納得して頂いた上で、契約や解約をして頂くようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行政の相談窓口は、入居時に説明しホーム内にも掲示している。苦情解決委員会を設立しているが、委員には地区の民生委員の方にも入って頂き、意見、要望等は運営推進会議にて報告し助言を頂いている。	玄関に意見箱を設置しているほか、今までに利用者・家族から要望や意見のあった内容を掲示し、より開かれた事業所の姿勢が窺えた。毎月の広報誌では写真を多く取り入れ、日頃の様子や活動内容をわかりやすいものとしている。	家族の意見としても家族会の開催が上がっている。家族会を開くことで、家族間の情報交換やホームの現状をさらに細かく知ってもらえる良い機会になることが期待される。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2~3回会議を行い、必要時は、随時話し合いの場を作り提案や意見交換を行い、反映出来るようにしている。気づきノートに気づいた点、提案を記入して頂き会議で話し合うようにしている。	毎日、朝・昼・夕の申し送り、月に2回のスタッフ・ケア会議の中で密な情報交換が行われている。美化や生活等の各委員会が設けられ、職員の意見がまとまることで、表出しやすい環境がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が、職員各自と個人面談を行い、悩み、目標に対する支援をしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時、スタッフ会議で、ケアに対する問題点など、改善しながら実施できるよう指導している。外部研修は、出来る限り交替で参加出来るよう勤務体制を整えている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会合や研修会とうで同業者と交流する機会が多い。近隣のグループホームの訪問もお互いにしており、運営推進会議で入居者の方と一緒に昼食を御馳走になり交流の場があった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くと共に、本人の言葉に耳を傾け、本人の生活歴や心身の情報など分かる事から記録に残し、全職員が情報を共有が出来るようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、家族の心配事や不安や困っている事要望など、じっくり耳を傾けるようにし、記録に残して全職員が情報を共有し、なるだけ期待に沿うよう努力をしている。その後も問題が生じた時は、連絡を密に行い、一緒に解決できるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって一番必要な支援が何であるかをよく見極めてから、サービス利用を家族とよく話し合っ て検討していくようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と買い物や食事作り、後片付け、掃除、洗濯物干し、たたみ、畑や花壇の世話など一緒に行っており、毎日の生活の中で何か小さな事でも楽しみを持って生活して頂けるようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際、日頃の本人の様子を報告したり、相談に乗ったりしている。面会が少ない家族には、広報紙を郵送したり、電話を入れて状況を知らせるようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出、外泊、旅行は、自由にされている。電話や面会もいつでも出来る体制をとっている。	センター方式(生活史シート)を活用し、本人・家族から生活歴の把握を行っている。入居後、家族支援で友人や親戚の方の面会もある。以前、踊りの師範をされた方が教え子に出会う機会もあり、喜ばれたこともある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	些細な事で小競り合うこともあるが、職員が仲立ちとなって場を取り持ち、他ユニットを訪問したり、ドライブやコンサート、散歩に誘うなどしてお互いの関係を保てるように努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に入院のまま退去に至った入居者には、職員が交代でお見舞いに行ったり、亡くなられた時は、葬儀に出席している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、言葉かけや表情を読み取りながら、意向の把握に努めている。困難な場合は、ケア会議を行い毎日の介護の中で気付いた気付きノートを参考にして検討している。	利用者の顔つき・表情・行動をよく観察することでニーズの把握に努めている。職員が気づいたことは、他の職員の共有することでケアの統一をはかっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様より生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の情報を頂いている。その後毎日の生活の中で本人との何気ない会話の中で、言葉を拾い、センター方式の記録に残し、情報を全職員で共有しケアの統一を図っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを1日3回必ず行い、一人ひとりの一日の過ごし方など、把握し対応している。介護記録、特記事項のほか、申し送りノートや受診ノートに記入し、情報の共有をしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限り本人にも要望を聞き、家族と話し合い、ケアカンファレンスにて、職員のケアプランに関する達成感、問題点の意見を聴き、把握しながら作成している。	利用者の担当職員がケアプラン導入シートに記入後、管理者がまとめてプラン作成に至る。一人ひとりの細かいニーズを受け、目標・サービス内容を考えられている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果、気付きの欄を作成しチェックが出来るようにしている。特記事項を広くとり、入居者の情報を共有できるようにし、実施やケアプランの見直しに活かせるように努力している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの担当者職員を決め、個々の願いを達成できる日を目指し実践し始めているところである。踊りの師範をされていた方が、民謡まつりを見に行かれ、懐かしい知人に方と会われ涙された。帰宅願望強い入居者には、ドライブや買い物など気分転換に出掛けたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会で職員が出場し応援に行った事がある。部落の行事の花見に参加したり、神社参拝空缶拾いをしたり、ホームの夏祭り、餅つきには来て頂いたりしている。入居者と一緒に食材の買出しやコインランドリー、広報配り、散歩、美容院など顔見知りも多く、挨拶を交わす関係になっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望にてかかりつけを決め、定期的を受診し、家庭に報告している。他の病院を受診する時は、必ず家族に報告し承諾を得るようにしている。	基本的に入居前とかかりつけ医の変更はなく、利用者・家族に安心して医療が受けられる体制がある。遠方の受診の際も職員が付き添い、必要時は家族に対し電話等で、受診報告を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護より健康チェックに来て頂き、気軽に相談できる関係である。24時間体制なので入居者の状態に変化があった場合適切な助言と医療関係者との連絡と受診がスムーズに行くようになり、職員の負担も大分楽になり安心して介護できている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	研修や交流などで、顔を合わせる機会も多く普段から相談をさせて頂いている。一人ひとりの入居者の状態により、治療方針や退院に向けての支援計画など話し合うことにより、本グループホームへ復帰できた入居者も多い。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護を契約する事にあたり、家族に説明を行った。入居時も家族に説明をしているが重度化した場合、現実として病院へ転院(つまり退去)するまでには、家族の気持ちもあり難しい問題になっている。終末ケア・看取りまでには、まだ至っていない。	現在までにターミナルケア・看取りの実施はない。急変・緊急時の場合は救急車を要請し搬送したり、緊急受診で対応している。ホームとしては「看取りの指針」を定め、契約時に説明・同意をしてもらっているが、職員間での勉強会等の実施には至っていない。	利用者・家族から希望があれば、今後は看取りを行う方針と定めているため、ホームとしても万全の体制作りが望まれる。職員の不安の軽減をはかるためにも職員教育の実施・家族の意向の確認を行うことを期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習の研修を全職員が受け資格を取得している。グループホーム連絡協議会で定期的に研修に参加して訓練を受けている。9/24に4名参加したばかりである。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施し、地域の方にも参加して頂いている。部落の消防団、民生委員、総代の方にも連絡が行けるように連絡網を作成した。今回消防訓練で、市役所の方に見学していただいた。	今年6月、消防署立会いの下、運営推進会議と同日開催で行った。木造2階建てで、段差もみられる構造であり、スロープや居室入り口にマスク・所在確認の札を準備している。また、災害マニュアルの整備はあるが、火災想定訓練が中心である。	様々な災害(地震、風水害等)を想定した繰り返しの訓練・シミュレーションが大切であり、日頃から職員間で具体的な避難方法・経路を確認し、災害時に備えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る時は、ノックや声をかけて入るようにしている。排泄、入浴、更衣や軟膏塗布する時などは、カーテンをしたり、居室にて行うなどプライバシーやプライドを損ねないように言葉かけや対応を工夫して行っている。異性が介護する時は、同姓職員と交代することもしている。	一人一人に応じた声かけや援助方法で対応している。必要時は職員2人で介助されることもある。現在は、利用者全員が女性であり、「化粧の日」を設け、利用者・家族に好評である。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床、就寝時間は、本人の意思に沿って支援している。日常生活の中で自己決定が出来るよう声掛けに工夫している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望がある時は、なるべく沿えるように対応している。一人ひとりのペースを大切に、業務優先にならないよう常に会議などで話し合いを行い、努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用されている入居者の方が多いが、パーマをかけたい方は、地域の美容院へ出掛けたり、衣替えや行事前には、衣料品店へ出かけたり好みの服を選んで購入している。お化粧品も機会がある時にスタッフが手伝い、記念撮影をしている。花火大会では、全員甚平を着て楽しむことが出来た。個々のおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から入居者と一緒に野菜皮むき、配膳、後片付けなど手伝って頂いている。	献立は、1週間分をまとめて、食事担当の職員が考え、利用者と共に、近くのスーパーへ買い物に出かける。利用者それぞれの能力に合わせて、包丁を使い野菜を切ったり、配膳を行われている。また、ホームの敷地には畑があり、いつでも新鮮な食材が手に入る。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食べる量も異なるので、その方に合った量を提供している。現在肝性脳症の入居者の方が、おられるの食事療法を行って。夏場は、特に水分量を多く摂取する為、起床時、就寝前の水分補給をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者一人ひとりに合わせて歯磨き、うがいを行っている。仕上げ磨きも必要な入居者はスタッフがやっている。定期的 歯科受診を行い、口腔内の清掃検診をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し時間おきのトイレ誘導を行っている。又 自立している方で、リハビリパンツを使用している方には、さり気なく声掛けを行い交換を行っている。	麻痺があられる方に対しても、トイレ誘導や介助を行い、なるべく日中はトイレでの排泄を心がけている。夜間も希望者にトイレへの誘導ができるように、羞恥心を配慮しながら、ドアの前には鈴をつけ所在確認し、安全に移動できている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物(バナナ、リンゴなど)や野菜、ヨーグルトなどを多目に取り入れた料理を提供するように、体操(ラジオ体操、足踏み)や散歩などで体を動かして頂いている。個々に応じた便秘薬と医師と相談し調節し無理なく排便コントロールが出来ている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの入浴のタイミングもあるので、個々に応じた声掛けの工夫をして入浴して頂いているが職員のは配置上、昼間の時間帯で入浴して頂いており、日曜日以外、いつでも入れる体制をとっている。	入浴拒否者が数名おられるが、脱衣場に入浴チェック表を貼り、入浴日を把握している。どうしても入浴できない場合は無理強いしないで、清拭や更衣へ変更したり、家族へ協力をお願いするなど、全員の清潔保持に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり自由に休息したり眠って頂いているが、自力で居室へ行けない入居者には、時間や体調をみて本人さんの希望を聞いて居室へ誘導して休んで頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方説明書やお薬手帳を頂いており、医師や薬局より説明やアドバイスを受け、スタッフが管理し確実に服用にあっている。服用チェック表を作成し1ユニット、2ユニットのスタッフがお互いにチェックをし合い、確認を取るなど誤薬防止に努めている。頓服の服用にあたっては、管理者に報告し、指示		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来る限り対応しドライブや買い物、散歩など支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、公園、コインランドリー、美容院など積極的に誘っている。担当スタッフと入居者の方との交流を深める為、1日2人だけで本人が望む所へ出かける計画をし少しずつ実行にうつしている。その際家族に方に承諾を得るようにしている。	外出願望の強い利用者は、一日に何度も外出を希望され、敷地内を散歩してもらったり、職員付き添いで近くを歩くこともある。他の利用者に対しても、花見やドライブ、買い物、図書館に本を借りるなど個別の対応がある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持されている入居者おられず、事務所にて御家族様より預かり、買い物へ出かけた際には、好きな物を購入して頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの贈り物が届いた時はのお礼の電話や家族への電話要求があった時は、電話して頂いている。毎年年賀状を家族に出している。普段の手紙を書ける体制をとっているが、気分によりかかれ多いことが多い。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の花や小物を飾り、楽しい雰囲気を出している。また、リビング内は、良く光が入りカーテンやすだれなどで調節している。	リビングは天井が高く、明るい日差しが差しこんでいる。廊下や部屋の出入り口には段差や、やや急なスロープがあるが、職員も特に気をつけており、目立った転倒はない。浴室前には職員のアイデアでロールカーテンを使用し、プライバシーに配慮しながら、介助者にも使いやすいものとなっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のソファを決め、自由にくつろいだり、それぞれ気の合った入居者さん同士が過ごせるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたタンスなど持って来られ、なるべく心落ち着くように配慮している。床には、じゅうたんを敷いたり、床にも座れるようにしている。	改築した建物のため、居室により明るさに違いがあるが、天窓をつけたり、内窓を設けることで調整している。階段を利用する場合は昇降機を使用し、安全な移動が行われている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所、浴室、自室の貼り紙や矢印、時計、大きいカレンダーをいつも目に入る所に設置してある。2階の入居者に対しては、階段と昇降機があり、体調に応じて使用している。1階のスロープは、体力作りに活かしている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400817		
法人名	有限会社 季節の花		
事業所名	グループホーム いさはや ユニット2		
所在地	長崎県諫早市福田町1673-8		
自己評価作成日	平成 22年 9月 8日	評価結果市町村受理日	平成 22年 10月 15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成22年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山小屋風の木造作りで庭が広く、家庭菜園、花壇の世話や収穫、夏には、夏祭り、花火大会、冬には餅つきを楽しんでいる。春には、部落の花見に招待して頂き、公民館での炊き出しに職員も参加し、郷土料理を教えて頂いたり、ホームの行事にも積極的に参加して下さっている。地域の方に見守られ地域に恵まれた自然がいっぱいで、幸福いっぱいグループホームです。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を申し送りしに唱えていたが、最近には行っていないが、機会あるごとに会議などで話をして全スタッフが共有し、実践につながるように働きかけている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	部落費を払い、部落の一員として広報配りや回覧板など入居者と一緒に行っている。神社や公民館、道路の掃除にもスタッフが参加し、お米も地域の方から購入し、出来たての新米を食べる事ができている。野菜もよく持ってきて下さっている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア発表大会にて「地域に見守られ」を発表した。地域や家族にホーム紙を配り、行事の案内を呼びかけ参加して頂いている。毎年の花見の招待にはほとんどの入居者とスタッフが参加し、郷土料理を御馳走になり、カラオケやゲームを楽しむ事ができた。毎年の花見参加で顔なじみとなり介護の相談をされるようになった。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、各それぞれの立場から意見を交換し、情報を共有する良い機会であった。会議で話し合った意見を今後のサービス向上に取り組むことが出来るよう全スタッフにも情報を共有し、努力を行っている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡協議会の研修にて講演をして頂いたり、交流会、意見交換会でも色々と相談に乗ってもらっている。運営推進会議には、忙しい中出席して指導をして頂いたり、情報交換を行っている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会には、毎年出席し会議で報告し、知識を共有出来るようにしている。帰宅願望の入居者さんも何人かおられるが、玄関に鍵は、掛けず、広い庭をのびのびと歩いて頂いている。禁止の言葉、言葉の拘束もしないように心掛けている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会、勉強会に積極的に参加し、それを会議で全スタッフが知識を交流し虐待防止に努めている。毎日の介護の中で、虐待にあたる行為がなかったか全スタッフお互いが注意しあっていけるような雰囲気を作るよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員が、会議の中で内容を報告して知識を共有したり話し合いを行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者や管理者が重要事項や契約内容を十分に説明し、理解して納得して頂いた上で、契約や解約をして頂くようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行政の相談窓口は、入居時に説明しホーム内にも掲示している。苦情解決委員会を設立しているが、委員には地区の民生委員の方にも入って頂き、意見、要望等は運営推進会議にて報告し助言を頂いている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2～3回会議を行い、必要時は、随時話し合いの場を作り提案や意見交換を行い、反映出来るようにしている。気づきノートに気づいた点、提案を記入して頂き会議で話し合うようにしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が、職員各自と個人面談を行い、悩み、目標に対しての支援をしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時、スタッフ会議で、ケアに対する問題点など、改善しながら実施できるよう指導している。外部研修は、出来る限り交替で参加出来るよう勤務体制を整えている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会合や研修会とうで同業者と交流する機会が多い。近隣のグループホームの訪問もお互いにしており、運営推進会議で入居者の方と一緒に昼食を御馳走になる機会があった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>信頼関係を築くと共に、本人の言葉に耳を傾け、本人の生活歴や心身の情報など分かる事から記録に残し、全職員が情報を共有が出来るようにしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時、家族の心配事や不安や困っている事要望など、じっくり耳を傾けるようにし、記録に残して全職員が情報を共有し、なるだけ期待に沿うよう努力をしている。その後も問題が生じた時は、連絡を蜜に行い、一緒に解決できるように努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人にとって一番必要な支援が何であるかをよく見極めてから、サービス利用を家族とよく話し合っって検討していくようにしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員と買い物や食事作り、後片付け、掃除、洗濯物干し、たたみ、畑や花壇の世話など一緒に行っており、毎日の生活の中で何か小さな事でも楽しみを持って生活して頂けるようにしている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会に来られた際、日頃の本人の様子を報告したり、相談に乗ったりしている。面会が少ない家族には、広報紙を郵送したり、電話を入れて状況を知らせるようにしている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族との外出、外泊、旅行は、自由にされている。電話や面会もいつでも出来る体制をとっている。ホーム内で仲良くなった入居者の家族同士で話し合い旅行されることもある。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>些細な事で小競り合うこともあるが、職員が仲立ちとなって場を取り持ち、他ユニットを訪問したり、ドライブやコンサート、散歩に誘うなどしてお互いの関係を保てるように努力をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に入院のまま退去に至った入居者には、職員が交代でお見舞いに行ったり、亡くなられた時は、葬儀に出席している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、言葉かけや表情を読み取りながら、意向の把握に努めている。困難な場合は、ケア会議を行い毎日の介護の中で気付いた気付きノートを参考にして検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に尋ねたり、毎日の生活の中で本人との何気ない会話の中で、言葉を拾い、センター方式の記録に残し、情報を全職員で共有しケアの統一を図っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを1日3回必ず行い、一人ひとりの一日の過ごし方など、把握し対応している。介護記録、特記事項のほか、申し送りノートや受診ノートに記入し、情報の共有をしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限り本人にも要望を聞き、家族と話し合い、ケアカンファレンスにて、職員のケアプランに関する達成感、問題点の意見を聴き、把握しながら作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果、気付きの欄を作成しチェックが出来るようにしている。特記事項を広くとり、入居者の情報を共有できるようにし、実施やケアプランの見直しに活かせるように努力している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの担当者職員を決め、個々の願いを達成できる日を目指し実践し始めているところである。温泉へ1対1へ行ったり、喫茶店でコーヒーを飲んだり、入居者の姉妹さんの家に訪問の為送迎したこともある。帰宅願望強い入居者には家族より自宅の鍵を預かり帰宅要求強い時に訪問する予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会で職員が出場し応援に行った事がある。部落の行事の花見に参加したり、神社参拝空缶拾いをしたり、ホームの夏祭り、餅つきには来て頂いたりしている。入居者と一緒に食材の買出しやコインランドリー、広報配り、散歩、美容院など顔見知りも多く、挨拶を交わす関係になっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望にてかかりつけを決め、定期的に受診し、家庭に報告している。他の病院を受診する時は、必ず家族に報告し承諾を得るようにしている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護より健康チェックに来て頂き、気軽に相談できる関係である。24時間体制なので入居者の状態に変化があった場合適切な助言と医療関係者との連絡と受診がスムーズに行くようになり、職員の負担も大分楽になり安心して介護できている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	研修や交流などで、顔を合わせる機会も多く普段から相談をさせて頂いている。一人ひとりの入居者の状態により、治療方針や退院に向けての支援計画など話し合うことにより、本グループホームへ復帰できた入居者も多い。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護を契約する事にあたり、家族に説明を行った。入居時も家族に説明をしているが重度化した場合、現実として病院へ転院(つまり退去)するまでには、家族の気持ちもあり難しい問題になっている。終末ケア・看取りまでには、まだ至っていない。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習の研修を全職員が受け資格を取得している。グループホーム連絡協議会で定期的に研修に参加して訓練を受けている。9/24に4名参加したばかりである。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施し、地域の方にも参加して頂いている。部落の消防団、民生委員、総代の方にも連絡が行けるように連絡網を作成した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る時は、ノックや声をかけて入りにしている。排泄、入浴、更衣や軟膏塗布する時などは、カーテンをしたり、居室にて行うなどプライバシーやプライドを損ねないように言葉かけや対応を工夫して行っている。異性が介護する時は、同姓職員と交代することもしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床、就寝時間は、本人の意思に沿って支援している。日常生活の中で自己決定が出来るよう声掛けに工夫している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望がある時は、なるべく沿えるように対応している。一人ひとりのペースを大切に、業務優先にならないよう常に会議などで話し合いを行い、努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用されている入居者の方が多いが、パーマをかけたい方は、地域の美容院へ出掛けたり、衣替えや行事前には、衣料品店へ出掛けたり好みの服を選んで購入している。お化粧品も機会がある時にスタッフが手伝い、記念撮影をしている。花火大会では、全員甚平を着て楽しむことが出来た。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から入居者と一緒に野菜皮むき、配膳、後片付けの当番を決めたらどうかと入居者同士で話し合う場面もみられた。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食べる量も異なるので、その方に合った量を提供しているが食べた直後食べていないと訴える入居者には、再度軽い物を提供したりしている。夏場は、特に水分量を多く摂取する為、起床時、就寝前の水分補給をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者一人ひとりに合わせて歯磨き、うがいを行っている。仕上げ磨きも必要な入居者はスタッフがやっている。定期的 歯科受診を行い、口腔内の清掃検診をして頂いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は自由にトイレにて排泄して頂いているが、失禁のある入居者の方には、それとなく声掛けをしてリハビリパンツやパットの交換してもらっている。夜間帯も見守りを行い、個々の力量や排泄パターン、習慣を活かした自立にむけた支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物(バナナ、リンゴなど)や野菜、ヨーグルトなどを多目に取り入れた料理を提供するように、体操(ラジオ体操、足踏み)や散歩などで体を動かして頂いている。個々に応じた便秘薬と医師と相談し調節し無理なく排便コントロールが出来ている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの入浴のタイミングもあるので、個々に応じた声掛けの工夫をして入浴して頂いているが職員のは配置上、昼間の時間帯で入浴して頂いており、日曜日以外、いつでも入れる体制をとっている。入浴嫌いの入居者さんについては、家族が温泉に連れて行かれることもある。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり自由に休息したり眠って頂いているが、自力で居室へ行けない入居者には、時間や体調をみて本人さんの希望を聞いて居室へ誘導して休んで頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方説明書やお薬手帳を頂いており、医師や薬局より説明やアドバイスを受け、スタッフが管理し確実に服用にあたっている。服用チェック表を作成し1ユニット、2ユニットのスタッフがお互いにチェックをし合い、確認を取るなど誤薬防止に努めている。頓服の服用にあたっては、管理者に報告し、指示を仰ぐ形にしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔、縫い物の仕事をしていた方には、雑巾やお手玉を縫って頂いたり、習字が上手だった方には自由に書いて頂いたり、庭の草花を摘んで自由に生けて頂いている。農業をされていた方には、家庭菜園の草むしりをスタッフと共に行い、収穫がひとつの楽しみとなっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、公園、コインランドリー、美容院など積極的に誘っている。図書館のカードを作っており、時折、本や紙芝居を楽しんでいる。担当スタッフと入居者の方との交流を深める為、1日2人だけで本人が望む所へ出掛ける計画を少しずつ実行にうつしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望でお金の所持されている方は、何人かおられる。事務所預かりの方もどんどん買い物には誘い、好きな物を購入して頂いている。家族の了承の元、お小遣い帳も付けており、領収書を保管している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの贈り物が届いた時はお礼の電話や家族への電話要求があった時は、電話して頂いている。毎年年賀状を家族に出している。普段の手紙を書ける体制をとっているが、気分によりかかれぬことが多い。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の花を飾り、カーテンやすだれやエアコン、扇風機、加湿器、ヒーター等で温度調節を行っている。食器の後片付け、配膳、下膳も気軽に出来るように工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のソファを決め、自由にくつろいだり、それぞれ気の合った入居者さん同士で個々の居室で談話したり、趣味を楽しんで頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や家族の位牌、写真を大事に飾ったり、自由に生けられている。花瓶は、入居者の目の届く所に置いていつでも生けられるようにしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所、浴室、自室の貼り紙や矢印、時計、大きいカレンダーをいつも目に入る所に設置してある。		